

アスベスト（石綿）が原因で発症する中皮腫は「労災型」のがんの代名詞です。アスベストは耐熱性や絶縁性に優れる繊維状の鉱物です。断熱材や絶縁材などに広く使われてきましたが、肺がんや中皮腫の原因になることが分かり、2006年によく全面的に使用禁止になりました。

日本で中皮腫による死亡は1980年代前半は年間で約100人でしたが、15年は1500人を超え、増加の途をたどっています。一方、早くから使用を禁じた欧米の多くの国では90年代をピークに減少傾向に転じました。

実は労災型のがんは200年以上も前から社会問題になってきました。18世紀に始ま

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

# 労災型、現代でも多発

ていることが、少し前に明らかになりました。

モカは世界保健機関（WHO）傘下の国際がん研究機関により、たばこと同様に、人への発がん性について十分な証拠がある「グループ1」と認定されています。主に皮膚から吸収されますから、事業所では、手袋などの着用が徹底されていないかった可能性が

きっかけでした。このあと行われた全国調査からモカの問題も明らかになったのです。

オルトートルイジンもグループ1の発がん物質で、やはり主に皮膚から吸収されます。ぼうこうがん以外にも、校正印刷工場の従業員に胆管がんが多発し、大きな問題となったこともありました。洗浄剤に含まれるジクロロメタンやジクロロプロパンが原因とされています。

あります。

この問題が発覚したのは、「オルトートルイジン」というモカとは別の化学物質を使っていた福井市の工場で、ぼうこうがんが多発したことが

免震・制振装置の検査データの改ざんなど、最近、日本の製造業における品質管理のあり方がクローズアップされています。産業衛生の面でも落ち度があったとしたら、猛省が必要だと思えます。

（東京大病院准教授）

った産業革命当時、煙突掃除に従事した貧しい少年たちの股にこびりついたタールで陰のうがんが増したのです。

職場で化学物質にさらされることで発症する労災型のが

んは、現代の日本でも多発しています。防水材料などの原料に使われる化学物質「MOC A（モカ）」を取り扱ってい

た全国7事業所で、労働者ら17人がぼうこうがんを発症し